

内外交差点

「タクシーという共通言語」で X Taxiとは何者か?②

竹島 一氏 (X Taxi専務理事) 2/12人目



私と近藤代表との出会いは、2019年の2月でした。丁度配車システムのサーバーの寿命が近づいており刷新を考えていた頃で、とんとん拍子に彼が経営する電腦交通（徳島市）のシステムを5月に導入することとなりました。慣れないシステムが落ち着くまで、大変慌ただしい時間を過ごした記憶があります。この頃に白髪が急に増え「竹島さんめっちゃ白髪ふえましたね！」と近藤代表に言われたのも今となってはいい思い出です。

その年の11月に徳島で近藤代表と一杯やっける時に、「川鍋（一朗）会長（日本交通）がJapantaxiさん（現・GO株式会社）でやっていた勉強会のようなことをやりたいんですよ！あれ、めっちゃ良くないですか？」と酔った顔で熱っぽく語っていたのを聞き流した覚えがあります。

「その時は声掛けてくださいよ」みたいなことを返したのですが、年が明けて2020年に新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、様々な活動が制限される中、移動の制限の影響が直撃してどれだけ赤字を出せば良いのか、使える補助金や助成金を、青年団体の活動を一緒にやっていた社労士の方や、先輩の税理士の方と電卓を叩いて頭を抱えている頃に一般社団法人X Taxiの立ち上げの記事をSNSで見ることになりました。すぐに入会フォームへ必要事項を打ち込んだような気がします。

厳しいコロナ禍を生き抜くために、様々な規模の事業者が知見を持ち寄り、問題の解決に向けて実施しアイデアや施策を共有する場、タクシーという共通言語のもとで様々な課題を共有し、課題に対してアイデアを持ち寄る場というのは「近隣事業者とは話もするな！」と祖父に教え込まれてきた私と

しては、とても新鮮で刺激的なものでした。また、週の半分以上は配車システムの前で半日以上座って過ごす身にも、オンラインツールを活用した活動というのは大変マッチしていました。事業所にいながら、これまで得られなかった業界内の知見を数多く得られるというのは、これまでの私にはなかったものでした。特に昨年度はほぼ毎週1回、今年も例会や理事会以外に月に2回はオンラインミーティングで理事及び委員長、監事のメンバーは顔を合わせ、様々な話題を持ち寄り、話をする時間が設けられています。X Taxiの活動内容についてはもちろんですが、自社の悩みであったり、ちょっとした疑問、アイデアを共有する時間は、本当に多くのものをもたらしてくれていると感じています。

このX Taxiの立ち上げ前からよくしていただいた先輩が理事にいらっしゃったことから、本年度、専務理事を担うこととなりました。実質3年目のまだまだ若い団体において専務理事を担うのは、役に対して実力が足りてないのを日々実感するばかりです。どうか暖かい目で見守っていただき、このX Taxiの今後の伸び代に期待いただけましたら幸いですし、参加いただき、一緒に活動いただけましたらなお幸いです。

▶▶Next→吉川永一監事



* 竹島氏は23年2月3日、電腦交通が大阪市北区のヒルトン大阪で開いた「電腦交通FUTURE SUMMIT2023」に登壇。自社が取り組むデマンド交通機能を活用した地元電力会社との連携事業等について事例報告を行った。同日、電腦交通アンバサダーの第1陣にも認定される等、その先進的な取り組みが評価されている。

同日、電腦交通アンバサダーの第1陣にも認定される等、その先進的な取り組みが評価されている。

